

「研究名：T1-2NOMO 声門癌に対する放射線治療の加速照射法と標準分割照射法の長期予後および遅発性放射線反応に関する研究（JCOG0701A3）」について

○ 研究の意義・目的

早期声門癌に対する加速照射法は一回線量が大きいことから、より長期の経過で放射線治療の有害反応が増加する可能性もあるため、本法の安全性のより適切な評価が必要と考えています。また、頸部の放射線治療により頸動脈の動脈硬化が進み、脳虚血疾患が増加するという報告もあるので、大規模な調査で発生状況を確認することは重要であると考えています。加速照射法と通常分割法の治療を受けた患者さんの安全性が長期間の経過でも問題が無いことを確認します。また脳虚血疾患の発生がどの程度おこっているかを把握し、今後治療法の改良が必要かどうかについて研究します。

○ 研究対象者

2007年9月5日～2013年1月25日の間にJCOG0701「T1-2NOMO 声門癌に対する放射線治療の加速照射法と標準分割照射法のランダム化比較試験」に参加頂いた方を対象とします。

○ 研究方法

本研究では、治療終了3年以降の治療効果や放射線治療による有害反応（副作用）、放射線治療開始以降に発生した脳虚血疾患（脳梗塞など）について調査、解析を行います。

○ 研究事務局(主) 資料・情報の管理責任者

愛知県がんセンター中央病院 放射線治療部 古平 毅

○研究組織

JCOG（Japan Clinical Oncology Group：日本臨床腫瘍研究グループ）放射線治療グループ
参加医療機関 <http://www.jcog.jp/basic/partner/group/index.html>

- 研究代表者 昭和大学医学部 放射線治療科 加賀美 芳和
- 研究事務局(主) 愛知県がんセンター放射線治療部 古平 毅
- 研究事務局(副) 順天堂大学院医学研究科 放射線治療学 鹿間 直人
- 国立がん研究センター中央病院 臨床研究支援部門 JCOG データセンター

○外部への試料・情報の提供

当該施設からデータセンター等への臨床情報の提供は、JCOG0701 登録番号を用いて、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当該施設の研究責任者および JCOG データセンターが保管・管理します。臨床情報や解析結果等のデータはデータセンター/解析施設で半永久的に保管されます。

○ 研究期間 当院委員会承認後～2021年7月20日

○ 個人情報の保護について 調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。

*研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....
お問い合わせ先 〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3
T e l : 082-257-1545
広島大学病院放射線治療科 教授 永田 靖 (研究責任者)
講師 村上 祐司 (担当者)
.....